

関係機関長 様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第3号を送付します。

平成19年度病虫害発生予察注意報第3号

平成19年11月19日
高知県病虫害防除所

病虫害名 ミナミキイロアザミウマ

1. 対象作物：施設野菜類全般
2. 発生地域：県内全域
3. 発生時期：10月中旬以降
4. 発生程度：多
5. 注意報発令の根拠
 - 1) 10月4～5半旬に実施した巡回調査では、県内全域の促成ピーマン・シシトウでの本虫の発生面積は平年を大きく上まわっており、寄生花率も高くなっている。また、促成ナスでは平年よりやや多～並の発生面積であるものの、寄生葉率は平年の倍以上となっている（表）。聞き取り調査などでも、施設野菜類全般で発生が目立つという報告が寄せられている。
 - 2) 向こう1ヶ月の気象予報では、気温は平年並か高めの見込みであることから、野外からの飛び込みが長く続くことや、ハウス内での増加が予想される。
6. 防除対策
 - 1) 施設開口部からの飛び込みを防ぐ。施設開口部への防虫ネット(1mm目以下)被覆、ほ場周辺の除草、可能な作物での近紫外線カットフィルムの利用など成虫の侵入防止と密度低下に努める。
 - 2) ミナミキイロアザミウマは花や生長点付近を好んで生息し、また青色粘着資材等に誘引されるので、早期発見の目安とする。
 - 3) 高密度時には防除が著しく困難となるので、発見次第、早期防除を徹底する。天敵導入ハウスでは、天敵に影響の少ない薬剤の選定に留意する。なお、薬剤抵抗性発達回避のため同一系統の剤の連用は避けるとともに、気門封鎖剤や微生物農薬等による総合的な防除に努める。
7. その他
 - 1) キュウリでの本虫の発生は現在のところ平年並～やや少なめであるが、本虫が媒介する黄化えそ病(MYSV)による被害が懸念される。キュウリ・メロンでは本虫の侵入防止と密度低下に努めるとともに、発病株は見つけ次第早めに除去する。

表：施設果菜類でのミナミキイロアザミウマの発生状況（平成19年10月）

作目 地区	促成ピーマン・シシトウ		促成ナス		発生面積ha(寄生密度%)* 促成・抑制キュウリ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
	東部	24.5 (7.3)	11.6 (2.3)	214.5 (40.8)	209.7 (19.7)	- (-)
中央部	39.5 (6.9)	7.8 (0.1)	48.0 (31.1)	37.4 (15.9)	11.3 (0.2)	15.9 (0.4)
中西部	8.1 (7.3)	9.3 (1.5)	- (-)	- (-)	3.3 (0.1)	2.6 (0.1)
西部	- (-)	- (-)	17.0 (32.7)	11.4 (8.3)	2.4 (0.3)	2.4 (1.2)
合計	72.1 (7.2)	28.7 (1.3)	279.5 (34.9)	258.5 (14.6)	17.0 (0.2)	20.9 (0.6)

促成ピーマン・シシトウ栽培面積：東部 28ha 中央部 79ha 中西部 19ha 合計126ha

促成ナス栽培面積：東部 286ha 中央部 48ha 西部17ha 合計351ha

促成・抑制キュウリ栽培面積：中央部 102ha 中西部30ha 西部 22ha 合計154ha

*促成ピーマン・シシトウの寄生密度は寄生花率、促成ナス及び促成・抑制キュウリは寄生葉率